

発刊にあたって

平成24年7月14日に八女市を襲った九州北部豪雨は、最大1時間降水量・最大24時間降水量、最大日雨量などにおいて、軒並み1976年の観測開始以来1位の記録となりました。

この記録的な大雨により、八女市は甚大な被害を受け、市内のいたるところで道路が寸断され全面通行止めとなったほか、土砂災害等と共に流出した立木等が橋脚に堆積してハザードとなり、周辺の水害を誘発するなどして災害が拡大することとなりました。今回の災害では、土砂災害により2名の方がお亡くなりになり、10名の方が重軽傷を負われました。

また、公共土木・農地農業用施設等の被害額(速報)が213億8,100万円となり、県施設の被害額138億円を加えると、約352億円に達しました。建物被害の内、住家については、全壊(流失を含む)61棟・大規模半

壊29棟、半壊142棟など1,243棟の被害が生じました。更に、断水・停電・電話の不通話等により、孤立した集落との連絡が途絶し情報の把握ができなくなるなど、多くの市民の皆様が被害が及ぶこととなりました。

被災されました方々にお悔やみとお見舞い申し上げます。

国や県をはじめ、自衛隊、警察、消防団等関係機関の皆様や、7,000名を超えるボランティアの方々や市内で活動していただき、義援金も、1億7千万円に達するなど、多くの方々から献身的な支援をいただいたことにより感謝を申し上げます。

さて、今回の九州北部豪雨の対応については、あらゆる角度から検証を行い、次の災害に備えていくため、平成25年3月に「八女市九州北部豪雨対策の検証と復旧復興計画」を策定し、復旧復興を進め、有史以来の大災害から一日も早く日頃の平穏な生活をとりもどし、これまで以上に安心して暮らせる八女市を築くために、今日まで全力で八女市民が一丸となって取り組んでまいりました。

被災後4年間が経過し、国の認定を受けた復旧事業はできましたものの、国の制度が及ばない小規模な復旧事業などの完了へ向けて努力を行っております。

今日もなお、各地で災害の声が聞かれます。私たちは八女市を襲ったこの災害の記憶を胸に刻み教訓としていくため、またこれまで取り組んできた復旧復興の歩みを後世に伝えていくため、今回ここに災害の記録を整理しまとめ、本記録誌として発刊致します。

復旧復興事業に携わっていただきました国や県をはじめ関係者各位、被災者の皆様、ご支援いただきました多くの皆様に、改めて感謝と敬意を申し上げます、発刊の挨拶とさせていただきます。

平成28年12月



八女市長
三田村 統之